

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記六）】

事業所番号	4472100595		
法人名	医療法人 二豊会		
事業所名	グループホーム やまもも		
所在地	大分県国東市国見町小熊毛2695-1		
自己評価作成日	H30.6.7	評価結果市町村受理日	平成30年8月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	平成30年8月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者が心穏やかに生活できるように個人個人の思いを職員全員で共有し支援するように努めています。

・作品作り、書道、塗り絵又、季節のものに触れる事で達成感を味わったり心の充足感を味わえる場面を多くもつように努めています。

・職員の気持ちが穏やかで利用者に係れるよう職場環境を整える努力をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・管理者や職員は、家族や利用者一人ひとりの思いや暮らし方の意向を把握しており、介護計画書に反映している。日々のケアは、個々のケアプランに沿って、実践・評価・見直しが行われている。

・利用者の潜在能力を見出し、作品作りや書道、塗り絵・季節のものに触れる事で活性化のある生活が送れるように支援している。

・職員の人材育成がなされ、日々の支援に活かされ、利用者に穏やかさが見られる。

・前回の外部評価結果をもとに、その時々状況に応じた支援が行われている。利用者に対し、安心したケアが展開されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り時にその日のスタッフが全員そろい声に出して復唱、内容共有し、日々実践しています。	運営理念と基本理念を作りあげ、目に触れる場所に掲示している。理念が実践されるように、毎朝、申し送り時に全スタッフで復唱している。また、理念の実践状況を定期的に会議の中で振り返っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお接待行事や防災訓練等に参加し、お祭り行事にも参加させて頂いてます。又、保育園児幼稚園児、小学校の児童等も通学や散歩の折には声をかけてくれ訪問もして頂いてます。	利用者と地域住民との触れ合いを多く持つために、演劇祭や地域行事・保育・幼稚園との触れ合い・お接待など馴染みの深い行事に参加している。近くに神社もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事、演劇祭等の参加する事認知症の方たちに対するで理解を深めて頂いてます。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の開催で地区区長・老人会会長・民生児童委員・市介護保険係・家族代表の出席を頂き事業所の行事内容報告や意見交換を行い協議させて頂いてます。	運営推進会議は、2か月に一度開催されている。区長や老人会会長・民生児童委員・介護保険課・家族代表にも声をかけ、参加をしてもらい意見交換がされている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市介護保険係との連携を常に持ちアドバイス等を受けております。又くにさき地域包括推進会議、市・町ケアマネ会議などを介し連携を深めています。	市の介護保険係と日頃から連絡を取り、事業内容の実態の報告や制度についてアドバイスをもらっている。また地域の包括推進会議やケアマネ会議などで関係を築きながら連携し、ケアサービスの質の向上に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の法人内の主任会議で身体拘束廃止委員会の内容を基に職員会議で話し合い確認し共有しています。	毎月の主任者会議で、身体拘束廃止委員会の取り組み内容を基に話し合い、職員間で内容を共有し、日々のケアに取り組んでいる。玄関の施錠などはせず、安全に配慮した圧迫感の無い環境作りに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年の市の研修会に参加し、職員会議の中で話し合い共有してます。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中に後見人制度を利用している方がいる事もあり日々の中で必要性を学んでいます。 職員会議を利用し勉強会を持っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時に本人家族等へ説明を詳細に致します。疑問等はその場でわかっていたくよう説明しています。又、看取り等についても説明を行い事前確認書もらっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時は勿論、電話等での要望意見を頂き施設運営に反映させて頂いています。	運営推進会議の際や面会時に家族の要望や意見を聞き、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議、常日頃のミーティングでの改善策を協議し職員の意見を反映させています。	職員の意見を毎日のミーティング時や職員会議時に聞き、改善策を協議して、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営形態(労務関係、給与、福利厚生)は医療法人二豊会で管理されています。 施設内での職場環境は職員が働きやすいように整えるよう心がけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の研修への参加や外部研修への参加を促し職員の資質の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内の向日葵との連絡連携を密に取っています。又町内他事業所との交流をする事でアドバイス等受けています。		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の御相談を受けた時よりご家族様から状況を詳しく伺い職員と色々な場面を想定し対応できるように心がけています。又、不安な気持ちの表出が出来るよう対応を心がけてます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の御相談を受けた時より、ご家族が困っている事不安な事要望等を聞き、入所してからもいつでも対応できるよう努めています。又面会も制限なくいつでも来てもらっています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	過剰サービスにならない様に本人家族が本当に必要な支援を心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の持っている力を認め出来る事は行なってもらい支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人のできている事を家族と共有し出来ない部分のお手伝いをお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会。外泊、行事への参加等で馴染みの方たちとの関係が途切れない様に心がけています。	馴染みの関係が途切れないよう、外泊や、地域の行事への参加・友人や近隣住民の面会等、交流が多く出来るよう心掛け、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の状態を把握し作品作りや日々のゲーム等でみんなと一緒に楽しく過ごせるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も再入所の希望をお聞きしたり相談に見える方もいます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言動等に気をつけて希望や意向の把握に努めています。	一人ひとりの思いを日々の関わりの中、表情や言動より把握し、本人本位に検討し、利用者が希望する暮らしが出来るよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報提供所等で在宅での生活の状況や生活歴等居宅のケアマネより提供を受け把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所の相談時に家族より経過の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員等でモニタリングし、担当者会議で話し合い介護計画に反映しています。	本人・家族・職員の意見を反映させた実践しやすい介護計画書を作成し、モニタリングしている。担当者会議で話し合い、評価・見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア記録やミーティングを中心に職員間での情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在のところでは行えていません		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域性もあり湯おぶ出来る地域資源が少なく十分な支援が行えていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在7名が母体病院が主治医ですが他の2枚はそれぞれの主治医のもとで定期的に受診を行っています。	2名の利用者は、昔からのかかりつけ医で定期受診をしているが、ほとんどの利用者の主治医は母体医療法人である。定期的な回診や、夜間や緊急時の対応など連携が取れ、適切な医療が受けられるよう体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設長が看護師、介護員の中に准看護師がいて常に介護職とミーティングできています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人母体病院と連携を常に取り定期受診以外でも主治医との連携を密にしています。又病院スタッフとも連携を密に取り合っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人母体病院と連携を常に取り定期受診以外でも主治医との連携を密にしています。家族には常に変化した状態を連絡説明するようにしてます。	重度化や終末期のあり方について入居時に要望を聞き、話し合いを行い承諾を得ている。また急変時など状態の変化時には、随時意向を確認し、母体医療法人の医師などと連携し、柔軟な対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時は、施設長に連絡を取り、到着するまでの間、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域での防災訓練に参加し、常にスタッフ全員が防災意識を身に付けています。	事業所の避難訓練や地域の防災訓練への参加など地域との協力体制も築かれており、職員の防災についての意識も高い。備蓄もあり、賞味期限の前に試食会も行っている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの理解度に合った声かけを行い、言葉かけを対応しています。	勉強会などで接遇マナーを学び、言葉遣いや態度に気を配りながら、誇りやプライバシーを損なわないよう言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴日や散髪などの希望を聞き自己決定できるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操、ゲーム、作品作り、散歩等提案し、選んで貰って行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの時時自分の好みの服を選んで貰ったり、人によっては本人の好みを散髪業者の方へ伝えています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は行っていないが季節のふきや切干大根など野と一緒に作ったり、後片付けなどは行ってもらっています。	事業所内で出来た野菜や、近隣の方からの差し入れの野菜なども取り入れた食事で、職員と利用者が和やかに食事を楽しんでいる。後片付けなど、利用者の出番もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人管理栄養士のもとで献立をたててもらい提供しています。 食事量水分摂取量の記録も確認共有し支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促し自分で出来ない部分のみ支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は全員トイレにて排泄をして頂いてます。夜間は一部の方のみオムツでの管理を行っています。	排泄チェック表を参考にし声かけ誘導をしており、全員トイレでの排泄を行っている。夜間一部の方はおむつ使用であるが、排泄の自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動状況、水分量の管理や、印食物の工夫をしながら便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決めています。外泊や外出等の場合の配慮はしています。	入浴は週に2回、曜日を決めて支援している。外出時や本人の希望等、個々に沿った対応が出来るよう、毎日準備をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人個人の状況に合わせ昼寝をしていただいたり自由に過ごして頂けるよう配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が服薬ファイルで薬剤の内容を把握しており服薬時も確認しながら支援しています。症状の変化に対しては施設長へすぐに報告し指示をもらっています。施設長は報告を受けると病院へ連絡を取ります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の後の片付けや出来る方は居室の掃除チェストの整理等はスタッフと一緒にしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の希望で外出、外泊は行えるよう支援しています。花見や地区の行事などの参加は積極的に行っています。お宮への散歩は時間を見て支援しています。	日常的にお宮への参拝や、近隣の散歩など行えるように支援している。また季節のお花見や地域の行事への参加など、積極的に取り組んでいる。外泊など個別の外出は、家族と協力し支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は家族管理となっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙をかける方がいなくなっています。年賀状等は出せるように支援してます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音楽やTVの音などの高さに注意してます。又壁にはその季節に合った利用者参加の作品を飾ってます。	季節感のある花や、利用者の作品が飾られた共用スペースで、それぞれ気の合った方と居心地よく過ごせるようベンチやソファを増やすなど工夫し、穏やかにくつろげる空間作りがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベンチやソファをセッとし気のあった方たちが集まったり特にはソファで休まれたりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今迄使っていた椅子などを持ち込んでもらって居室で一人の時間を過ごす方もいます。	使い慣れた家具を持ち込んでもらったり、写真や作品が飾られたり、居心地よく自由に過ごせるような工夫のある居室づくりとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	異食行動を行う方にはゲームを行う時や作品作りの時などは必ずスタッフが傍について行っています。		